

会議録	
付属機関又は 会議体の名称	第2回 男女平等推進センター運営委員会
事務局(担当課)	男女平等推進センター
開催日時	令和4年6月17日(金) 午後3時～
開催場所	オンライン会議または男女平等推進センター研修室2
出席者	委員 小吹 文紀 有泉 三起子 川崎 渉 原田 敏郎 木川 るり子 北崎 裕紀子 宮崎 信行 林 千鶴子 堀江 咲智子 山本 和子
	事務局 3名
会議公開の可否	公開・非公開・一部公開 傍聴人 0名
非公開・一部公開 の場合はその理由	
会議次第	議題 1. 事業報告および今後の予定について 2. エポック10 利用者アンケートの作成について 3. 連絡事項
審議経過	
【議題1】 事業報告および今後の予定について	
事務局	・ 事務局より資料1-1「運営委員会 事業報告(庶務・計画調整G)」、資料1-2「運営委員会 事業報告(事業企画G)」、資料1-3「運営委員会 事業報告(相談G)」説明 —委員からの質疑および意見—
委員	◆ 庶務・計画調整グループの事業について 「審議会における女性参画推進」の女性委員比率の目標が40%で、令和3年度は集計中ということだが、令和2年度は何パーセントだったのか。
事務局	令和2年度は36.6%である。
委員	豊島区では女性委員がいない審議会はあるのか。
事務局	現在、豊島区では女性委員がいない審議会はない。
委員	◆ 事業企画グループの事業について エポック10 フェスタには、若年層の参加も多数あり、特に子育て中の方だと思いが積極的な意見も出て非常に良かった。また、各講座で豊島区男女平等推進センター(以下、「エポック10」という)がある3階に展示コーナーを設けている旨の周知をしていたが、講座参加者の中で「豊島区民だがエポック10を初めて知った」と話していた方もいたことから、このような働きかけがエポック10の認知度向上には重要だと感じた。
委員	東京レインボープライドは新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間中止となったが、今年はコロナ禍で入場制限はあったものの、3年ぶりに開催することができた。入場者数は6万6,949人とのことで、大変盛況だったと思う。このようにコロナ禍におけるイベントの運用は世間で少しずつ変化がみられるが、エポック10が主催する講座やイベントについては今後、どのような方針を考えているのか。
事務局	現在、講座等は会場受講だけでなく、オンライン上での受講も可能としているが、その運用はしばら

く継続する予定である。一方、エポック 10 シネマ等のオンラインでの配信が不可能なイベントについては、新型コロナ感染拡大状況や国・都等の方針も鑑み、人数制限を緩和するなどの検討を図っていきたいと考えている。

委員 映画館や劇場等では、人数制限を随分、緩和している。エポック 10 シネマ等のイベントを大変楽しみにしている区民も多い。映画館や劇場でクラスターが発生していない状況を鑑み、人数制限は是非、緩和してもらいたい。

事務局 いただいた意見を参考に検討する。現在エポック 10 シネマの会場では机を配置しているが、机を撤廃する等の工夫で、ソーシャル・ディスタンスを確保しつつ、多くの区民の方にご参加いただけるよう工夫をしていきたい。

委員長 イベント等で人数制限を行っているため、参加したくても参加を断られるという状況を改善したいという委員の意見はその通りだと思うが、一方で行政が主催するイベントについては、一般の映画館や劇場とは違う新型コロナウイルス感染拡大へのリスク対応が求められているということを考慮しなければならないと考える。今後は、リスク対応をしつつ、少しでも多くの区民の方が参加できるような方策を検討して行ってほしい。

事務局 いただいた意見を参考に検討していく。

委員 「今後の予定」をみると、7月から 9 月にかけて事業が少ないように感じる。

事務局 「今後の予定」に掲載できていない事業があるため、口頭で紹介する。8 月には理工系女子の育成を目的とした「女子中高生限定ウェブサイト作成講座」を開催する予定である。女性は仮に理系が得意であったとしても、アンコンシャス・バイアスにより文系に進むよう周囲に決めつけられることも少なくない。そこで当該講座により、女子中高生のキャリアプラン構築の支援をしていきたいと考えている。また、夏休みにかけて中学 3 年生を中心にアンコンシャス・バイアスについての意識調査を行うことになっている。さらに 9 月の土日には、ファーマーズマーケットの豊島区 SDGs ブースに出展する予定である。その他、豊島区区制 90 周年事業、およびエポック 10 開設 30 周年の記念事業も展開していく。

委員 アンケートの満足度が点数で出ているが、いただいた意見や意見に対する改善報告等はされているのか。顧客満足度の向上を考えると、そのような取組みをした方が良いと考える。

事務局 いただいた意見を参考に検討していく。

◆ 相談グループの事業について

委員 東京都内でセーフコミュニティの国際認証をとっているのは豊島区だけのようなのだが、もっと大きく取り上げていいのではないかと。具体的にやっていることなどを教えていただきたい。

事務局 セーフコミュニティは予防対策委員会が全部で 9 つあり、1 つが DV で、その所管課が男女平等推進センターである。課題としては DV 被害にあわれている方等にいかに情報を提供していくのかということで、民生委員、女性の支援団体、NPO、弁護士、医療機関の方々に意見をいただいている。

委員 DV の部会があり、10 年以上かけて予防に取り組んでいることを、もっと区民にアピールしていただきたい。

委員 デート DV 予防教室を 8 校の区立中学で実施したというのは素晴らしく、今後、もっと増えてほしい。また、区民ひろばなどに置いている相談窓口の周知カードを小学校から高校ぐらいまで設置することで、教師の性暴力、セクハラ抑制力となるのではないかと。子どもは、友達にも親にも相談できず悩んでいるという。今あるカードを置くだけでもできないだろうか。

事務局 中学校のデート DV 予防教室は、先生にも参加をいただいております。生徒には相談窓口の周知カード

を配布している。小学校に設置する場合には、小学生用に文言を変えていく必要がある。なお、推進プランでは、男女平等教育の推進を重点課題として掲げている。今後、プランに則り、どのようなことに取り組んでいくか関係課と共に検討していく。

委員
事務局 まず、教師の性暴力、セクハラを食い止められたらと思う。
プラン策定の時点で、「事業の内容」として教師のセクハラ対策までは想定していないと思われるが、児童への性暴力やセクハラは許されるものではない。プランを推進していく中で、男女平等推進センターがどのように関わっていくかについては、ご意見を参考としたい。

【議題 2】 エポック 10 利用者アンケートの作成について

事務局 ・ 事務局より資料 2-1「エポック 10 利用者アンケートの作成に関する意見まとめ」、資料 2-2「エポック 10 利用者アンケートの作成について」説明

委員長 アンケート作成の目的の再確認だが、エポック 10 の機能は、男女共同参画推進に関する事業の展開、情報収集・発信であると同時に、区民や団体等が男女共同参画に関する活動や交流を行う場としての役割も持っている。しかし、コロナ禍で団体の活動が停滞気味であり、さらに世の中がオンライン化していくと、「もう施設はいらない」という話になるのではないかと懸念がある。そこで、コロナ禍においても、区民や団体等が男女共同参画に関する活動や交流を行う場として機能するために、運営委員会として利用者にアンケートを実施し、今後の議事の参考にしていきたいと考える。

各委員 目的について再度、確認した。

委員長 アンケートの対象者はどうか。前回の会議では、エポック 10 登録団体、一般団体等の施設利用者とワーク・ライフ・バランスの認定企業やイベント、講座参加者等の事業参加者を対象とする案が出たが、いかがか。

委員 講座参加者は講座そのもののアンケートがあるため、追加で運営委員会アンケートもあるとなると負担が大きく、回収率が落ちるのではないか。

委員 アンケートは基本、任意であるため、回答できる人が回答すればいいのではないか。

委員 アンケートでいただいた意見は掲示する等、共有するべきだと考える。良い意見が掲示されていれば、エポック 10 に行きたくなる人が増え、周知に繋がるのではないか。

委員 講座のアンケートはどのくらい返ってきているのか。

事務局 今すぐに回収率を回答できるわけではないが、感覚としてはほとんどの方がアンケートを回答いただいていると思う。

委員 多くの方、様々な世代に回答してもらいたいので、QR コード、FAX など、アンケートの媒体は多様化したい。

事務局 再度、本アンケートをする目的を確認したい。「エポック 10 の周知」を目的とするのか、「エポック 10 登録団体の活動状況を可視化」を目的とするかで、アンケートの形式や対象者は大幅に変わってくる。

委員長 本アンケートはあくまでも施設利用者と事業参加者を対象にする。そのアンケートの中にエポック 10 の周知となる項目も盛り込んでいきたい。例えばエポック 10 の施設や事業のうち、知っているものに「○印」をつけてもらう。そうすることで周知されているものと、周知されていないものが分かってくるのではないか。講座のアンケートは回収率が高いということなので、裏面に運営委員会のアンケートを入れたらどうか。

事務局 ワーク・ライフ・バランス認定企業にもアンケートの対象にするという話が出ていたが、認定企業制度への申請手続きの負担が重いことが課題となっている現状で、さらに運営委員会のアンケートを依

頼めることは躊躇してしまう。

委員長 ワーク・ライフ・バランス企業へアンケートを依頼することが難しいという状況は了解した。良いアンケートを作れば、イクメン・カジダン・イクジイ写真展の応募者など様々な場面で使えると思うので、配布可能な対象を今後も検討していきたい。

委員 エポック 10 登録団体の活動状況の把握も必要ではないか。

委員 エポック 10 登録団体へは別のアンケートにしてはどうか。

委員 アンケートではなく調査票を配布したらどうか。

委員 エポック 10 登録団体にはインタビューしてはどうか。例えばアンケートに最も協力的だった団体に対し、インタビューするなどはいかがか。

委員長 ここまでの話をまとめると、アンケートは 2 種類作る。1 種類目はエポック 10 登録団体用で活動状況、エポック 10 の事業・施設に対する意見、エポック 10 事業の認知確認を行う。また一部団体にはインタビューを実施しても良いのではないかという意見が出た。2 種類目は一般団体、個人利用者、講座参加者用で、エポック 10 の事業・施設に対する意見、エポック 10 事業の認知確認を行う。講座参加者には別途、講座アンケートがあるため、裏面等に運営委員会アンケートを追加するという手法まで意見が出たが間違いないか。

各委員 間違いない。

委員 アンケートを取る前にどのような回答が出るか、仮説を立てるべきではないか。

委員長 次回、運営委員会で仮説については話し合うことにする。

委員 全くエポック 10 を利用していない団体に対してもアンケートを取ってみたい。例えば、近隣の大学などはどうか。

委員長 意見を参考に次回以降検討していく。次回はアンケートの各項目の内容を検討していきたい。

委員 委員の意見を踏まえ、アンケート案を作成していく。アンケート案は「エポック 10 未来の会」から提出するが、あくまでも運営委員会としてのアンケートであるので、引き続き協力をお願いしたい。

【議題3】 連絡事項

委員長 次回、第 3 回運営委員会は 8 月 19 日(金)15 時より開催する。

以上で運営委員会を終了する。

提出資料

資料 1-1 運営委員会 事業報告(庶務・計画調整 G)

資料 1-2 運営委員会 事業報告(事業企画 G)

資料 1-3 運営委員会 事業報告(相談 G)

資料 2-1 エポック 10 利用者アンケートの作成に関する意見まとめ

資料 2-2 エポック 10 利用者アンケートの作成について